

銀漢亭日録



伊藤伊那男

6月28日(土)▼午前中に彗星集の選をして八月号の執筆終了。小田急線、東海道線、伊豆線を乗り継いで十五時過、伊東。「ホテルラヴィエ川良」へ入る。十七時、唐沢君が迎えに来てくれて居酒屋「元氣」へ。「伊東市俳句連盟」の高橋、宮沢氏他、「銀漢」の金井、大槻、清人氏が私の歓迎会を開いて下さる。あと五人で一九五五年開店というトリスパーへ。一足先にホテルへ戻る。

29日(日)▼たっぷり眠る。十時、唐沢君、高橋会長が迎えに来て下さる。「第四十四回伊東温泉つづじ祭全国俳句大会」当日句の選句講演「小林一茶の苦悩」を一時間はど。無事済みますことができてほつとする。年末に依頼があった時は、ここまで身体が持つかどうか……と思ったものだ。十七時半、「熱海伊豆山ハーヴェストクラブ」に入る。

30日(月)▼快晴。温泉。朝食は海を見ながらゆっくり。前面が海なのでクーラーが不要。終日何もしないで過す。

7月1日(火)▼快晴。早起きして温泉、ミストサウナ。ゆっくり朝食。十四時帰宅。留守中の雑用。

2日(水)▼暑い一日。やや氣力弱く、だらだら過す。到来の桜桃うまし。

3日(木)▼郵便局で数件振込など。十五時、四谷の漢方医「修琴堂大塚医院」。炎暑の中。四週間分の薬を受領。十七時、日暮里の本行寺訪問。村上護先生の墓に詣でる。今年十三回忌と。本庄康代さんの仲立ちで加茂一行住職、「月の匣」主宰水内慶太氏と生存確認の会。日暮里の「喜せん寿司」。月下美人、一花咲く。

15日(火)▼九時「順天堂医院」。採血、CT検査。杏子合流し、齋浦先生と面談。肝臓の癌は五・五センチ位。「東京目白クリニック」で受けているヤーボーイはまだ一回にて効果は不明と。十三時、桃子と合流して「神田さくかわ」で鰻の昼食。あと「サンマルクカフェ」で雑談。十六時半「神保町ひまわり館」。「銀漢萩句会」の小泉良子句集「花曇」の出版祝いの会。選句のあと、「全家福 新館」。歓談。昼、鰻重完食したのであまり食べられず。

16日(水)▼「銀漢」夏の全国俳句大会2025の選句。賞品の色紙三枚、羽衣衣さんに投函す。

17日(木)▼「銀漢」の選句。夜「銀漢句会」。今日の会場は万世橋区民館。

18日(金)▼十四時、調布。俳句講話。今日は俳句を離れるが、室町・戦国時代の関東の群雄割拠についての四方山話。あと、喫茶店で歓談。「食品館あおば 仙川店」に寄ると、ぱったり杏子と行き合い驚く。

19日(土)▼終日、何もせず、寝たり、起きたりして過す。鰻を乗せた素麺、庄内のメロン、岡山の桃。水羊羹などうまし。

20日(日)▼数句会の選句。「銀漢」の選句。集中力無く、午後はぐずぐず。

21日(月)▼「銀漢」の選句。何とか終了。

22日(火)▼「東京目白クリニック」。ヤーボーイは二回目。ゲームタビィン、GCPの三種を点滴。帰宅して夜まで眠る。三十七・五度と、熱あり。

23日(水)▼昨日より少し楽だが、のろろ過す。五句会ほどの選句は何とか熟す。メロン、桃。夜、冷やし中華を何とか食す。

24日(木)▼昼前、軽井沢駅に柴山つく子さんの迎えを得て、嬬恋村へ。

4日(金)▼暑い一日。数句会の選句。他はぐずぐずと過す。

5日(土)▼桃子が月下美人の花は食べることが出来るかと聞いてきて、スーブに。とろみのある花で佳味。「第十回いわき 海の俳句全国大会」の事前投句の選。第一回目の選者であった。今回が最終回の大会とて選者の依頼があったもの(応募句千二百五十位と)。

6日(日)▼午後から杏一家が来て、私の誕生日前後祭を開いてくれる。

7日(月)▼七十六歳の誕生日に辿り着く。九時、「東京目白クリニック」。二種の点滴治療を受ける。帰宅して昏々と眠る。十七時半、日暮里の夕焼け酒場「銀漢亭の日」。丁度私の誕生日にて、結社を越えて五十数名の方が集まって下さる。事前投句の三句出し句会など。実に嬉しい誕生日である。

8日(火)▼昨日気が張っていたせいもあったか、今日は副作用であろうか気怠くて何も手に付かず。一日寝て過す。

9日(水)▼気分、大分回復する。十二時半、「東京ドームホテル」の「京料理 熊魚菴 たん熊北店」。「梶の葉句会」の食事会にお招き戴く。専菜の茶碗蒸佳。

10日(木)▼「銀漢」八月号の校正。終日家の中。

11日(金)▼調布の俳句講話についてのネタ調べ。関東の歴史と食物、俳句に付いて話そうかと。

12日(土)▼午後、半蔵門の「麹町区民館」にて「銀漢本部句会」、四十五人プラス欠席投句七人。あと「一番どり 半蔵門店」にて親睦会。

13日(日)▼句集「狐福」の帯文、自選句、何回目かの校正など。新潟から到来の巾着茄子、大半を焼茄子に。娘と孫に焼き方を伝授する。

14日(月)▼十一時半「関東中央病院」。この一月の経過報告。

柴山山荘で桃、ブラム、葡萄の昼食。数日間、お世話になる予定。昼寝。時々、時鳥の声が聞こえる。別天地の涼しさ。夕方、「北軽井沢句会」幹事の山崎ちづ子さん、色々な食物を持参して下さる。十九時頃、「ホテル一三〇」の温泉へ。鉄分の濃いなかなかの温泉。夕食少々。まだ調子戻らず。

25日(金)▼五時、起床して、東京でやり残して来た九月号彗星集の選句。あとで担当の辻本理恵さんに投函するが、ポストは日に一回の集配と。朝食は蒲原胡瓜、「四一九」という新種のキャベツ、モロコインゲンの味噌汁、とうもろこしなど。昼まで一仕事して、今日は「万座温泉」へ行くことに。嬬恋村は広い。「万座温泉 日進館」は標高千八百メートルの硫黄泉の名湯。夕方、山崎ちづ子さん、北川京子さんが来て下さり、歓談。昼間、万座温泉へ行く途中、北川さんの店「ル・ボスケ」に突然顔を出して驚かせた。

26日(土)▼午前中、小林尊子さん見えて歓談。昼過ぎ、鹿沢温泉に向かうが道を間違えて行き着けず。断念して戻る。北川京子さんの店「ル・ボスケ」で降りて貰い、コーヒーとロールケーキ。店がひと段落したところで吾妻川沿いの「半出来温泉 登喜和荘」へ案内して貰う。ぬる目の湯で、私には合う。一時間ほど過す。

27日(日)▼五時。三十分程散歩。今日はまずまず快調。十一時に出て、「鹿沢温泉 紅葉館」。湯は半出来温泉と似ていて熱目。近くの「いっさく庵」で盛蕎麦。一眠りして十八時、ちづ子、京子、かずえ、一郎、岡田さん見えて歓談。

28日(月)▼六時。一時間ほどバルコニーで緑を楽しむ。ゆっくり朝食。茹じゃがいも、蒲原胡瓜、モロコインゲンの味噌汁、メロン。柴山さんに軽井沢駅まで送って戴き、十三時発の新幹線で東京へ戻る。